

令和4年度
第2回地域振興会議会長会議事概要

日時：令和5年2月6日（月） 13時30分～15時00分
場所：市役所本庁舎6階 6-1会議室

〔各地域振興会議〕 16名

会長：山田会長(国府)、上山会長(福部)、竹田会長(河原)、西川会長(用瀬)
小谷会長(佐治)、河根会長(気高)、小川会長(鹿野)、長谷川会長(青谷)
総合支所：湯谷国府支所長、平戸福部支所長、九鬼河原支所長、片山用瀬支所長
下田佐治支所長、中原気高支所長、岡本鹿野支所長、田中青谷支所長

〔本庁関係〕 2名

深澤市長、鹿田市民生活部長

〔事務局〕 3名

市民生活部地域振興課：漆原次長、山名課長補佐、小野主任

【会議次第】

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 各地域で重点的に取り組んでいる事項について
＜テーマ1＞ 安心して暮らし続けることのできる地域の維持
＜テーマ2＞ 魅力ある地域づくり・人づくりの推進
- 4 その他
- 5 閉会

議 事 概 要

1 開会

2 市長あいさつ

3 各地域で重点的に取り組んでいる事項について

【テーマ①】 安心して暮らし続けることのできる地域の維持 ＜福部地域振興会議 上山会長＞

◎公共交通の確保と地域活性化の取り組みについて

1. 公共交通の確保について

令和2年3月に出された「鳥取市生活交通創生ビジョン」において、福部循環バスの現状と今後の見通しについて示されており、その中で、鳥取市社会福祉協議会が運行しているが、人手不足や運転手の高齢化による影響を受けやすい点と、現状のままであると5年先以降の路線の維持が困難になる可能性がある点が指摘されている。また、以前行った「生活交通に関するアンケート」において、高齢化の影響からドアツードアでの運行希望が多数を占めた。このような地域の実情にあった生活交通のあり方を検討したい。

2. 空き家対策事業について

平成30年度に空き家調査を行った際、町内に空き家が86戸あることが判明した。令和3年度から教育支援団体「福部となりののがっこう」が移住定住空き家運營業務を受託し、地域の空き家情報の収集・移住希望者への紹介等の取組を開始した。今後活用できる空き家情報の整備や空き家所有者への交渉を本格的に進めていく。

また、福部町内に設置していたお試し体験施設が、現在廃止となったため、新規物件を探している。引き続き、空き家を活用した移住者の呼び込みや地域活性化策に取り組んでいきたい。

3. JR 福部駅を活用した地域活性化について

平成29年度に「福部町まちづくり構想」を策定し、JR 福部駅を活用した地域活性化策の検討を始めた。地元団体の「浜湯山・多鯉ヶ池活性化委員会」が令和3年度から3か年の予定で、鳥取市輝く中山間地域創出事業補助金を活用して事業を展開し、今年度は植木の植え替え、ベンチ・レトロな郵便ポストの設置、福部町出身のイラストレーター伊吹春香さんが、駅舎にらっきょう畑等のイラストをペイントする等、駅周辺的美観整備を行った。

今後、駅舎を拠点としたウォーキングイベントや料理講習等を計画しており、駅周辺の賑わい創出が期待できる。

＜河原地域振興会議 竹田会長＞

◎住民主体の地域交通と防犯青色パトロールの取組について

1. 住民主体の地域交通の取組について

町内において、高齢に伴う自動車運転免許証の返納により、買い物に行けない人が増加している。河原町内にはバス路線が3路線あり、その内1路線を日ノ丸自動車、2路線（令和3年から国英地区、令和4年から散岐地区）が共助交通を運行している。病院や買い物、通学等が利用目的であり、好評を得ている。

今後、運転手の確保が課題となるため、支援策等、検討を続けていくことが必要。

2. 防犯青色パトロールの取組について

子供たちが安心して通学できるように、防犯青色パトロールを住民と総合支所職員が一緒になり、長年継続して行っている。（15時から16時過ぎまで全町域を見回っている。）

＜用瀬地域振興会議 西川会長＞

◎生活交通確保の取組と「地域共生社会」の推進について

1. 用瀬町での生活交通確保の取組について

用瀬町社地区では市有償交通廃止に伴い、令和4年4月から「いきいき社まちづくり協議会」が中心となり共助交通の運行を開始した。社地区・用瀬地区・大村地区の全域を網羅したルートが設定されている。利用実績は1562人(12月末まで)となっており、3月末には2000人に到達する見込み。利用者は一般乗客の他、小学生等も含まれる。

バスについては、目立つようにしてほしいと利用者から要望があり、このようなデザインとなっている。

2. 用瀬町での「地域共生社会」の推進について

用瀬町社会福祉協議会が主体となり、集落単位の見守りネットワーク「ひなネット」を実施している。用瀬町には30集落あり、令和3年に9集落、令和4年に4集落が活動を開始した。これからも参加集落を増やしていく予定である。

令和元年度に立ち上げ、用瀬町内の関係機関から示された困難事例を、行政や各専門職と連携して調整・支援する「用瀬町地域包括ケアシステム推進連絡会」と「ひなネット」との連携を今後目指していく。

<佐治地域振興会議 小谷会長>

◎関係人口を活用した地域の維持・活性化について

佐治の高齢化率(65歳以上)は54%に達しており、人口は合併時点の約2800人から現在に至るまで約1200人減少(減少率43%)し、約1600人となっている。他地域の20年先をいっている状況である。それに伴い、交通や買い物等、生活に必要なサービスや機能を維持することが難しく、地域で安心・安全な暮らしを継続することが困難になってきている。持続可能な地域づくりを目指すため、地域内の多様な主体が連携し、地域を挙げて関係人口の仕組みづくりと活用を検討している。

今後は、関係人口によって組織する(仮称)「佐治町応援団」等を活用した、地域のコミュニティ活動及びイベントの企画・運営、移住体験ツアー等を地域おこし協力隊を導入し、実施していくことで、地域活性化及び地域の魅力発信に取り組んでいきたいと思っている。

<市長による意見・感想>

◎福部地域での取組について

公共交通の維持については、鳥取市全体の大きな課題である。運転手の確保はバス事業者も同じように課題として捉えられている。共助交通に積極的に取り組んでいただき、感謝している。

空き家問題についても、人口減少に伴い、本市を始め全国的にも大きな問題となっている。危険空き家については、撤去の問題がある。比較的新しい空き家についてはいかに利活用していくか、移住定住に役立てていくか、取り組む必要がある。地域で取り組むことは大切なことだと思うので続けてほしい。

駅舎について、古くなったら自治体で整備してもらえないかという話もある中で、地元で大事に管理していただいているのはありがたい。

◎河原地域での取組について

国英地区と散岐地区で、いち早く共助交通に取り組んでいただいた。運転手の確保については大きな課題だが、熱心に取り組んでいただいているので、感謝しているところである。

防犯青色パトロールについては、交通事故防止・防犯の観点から子供たちの安全・安心を守る取組であり、引き続き地域一体となって実施していただきたい。

◎用瀬地域での取組について

路線バスの減便に対し、地域でどうにかしようという機運が高まり、取り組んでいただけののありがたい。将来的に安定した運営をどうしていくかという課題が続くので、行政として支援策の充実を検討する必要があると思う。また、路線バスとのつなぎが円滑にできる仕組みも考える必要があると思うので、地域と一緒に検討していきたい。

「ひなネット」について、ネットワークによって互いに支え合い、助け合うという仕組みづくりによって、住み慣れた場所で、みんなが心豊かに暮らせる地域づくりを行うというのは、我々の目

指すところである。共に取組を進めて行きたい。

◎佐治地域での取組について

全国的に人口減少が問題となる中で、人口の維持・増加というのは非常に難しい。そのような中で、鳥取県・鳥取市というのは過疎の先進地でもあるので、地域の維持をどう行っていくか、仕組みづくりを考え、日本の中でも先進的な取組を行っていききたい。

佐治町は以前から地域づくりに熱心に取り組んでおられ、小さな拠点についてもいち早く取組を始められた。地域おこし協力隊員も任期終了後に地域に残ってくれている。非常にありがたいこと。協力隊の制度はとても良いものだと思うので、市としてもしっかりと活用していきたい。

＜テーマ⑤について意見交換＞

・「佐治町応援団」について、組織するのは町内外者など、どのような構成になる予定か。(河根会長)

→ 関係人口の方で作る組織を想定。色々と先進地を調べ、日野町の取組を参考としている。効果的な活用をするためには組織化が必要と考えている。(小谷会長)

【テーマ②】 魅力ある地域づくり・人づくりの推進

＜国府地域振興会議 山田会長＞

◎谷地区自主映画作りと地域観光資源を活用した取組について

1. 谷地区自主映画作りについて

地域住民が主体になって映画を作り、DVDにしたものを市内の地区公民館、小中学校全てに無償配布を行った。まち協を元気にしたい、活力を持って活動してもらいたいという目的で取り組んだ。

スタッフ・演者は基本地区の住民だが、鳥取大学の学生や市内の他地域の方などにもご協力いただいた。撮影期間は3か月程度だが、準備や編集合わせると制作期間は2年程度。

取組の効果としては地域住民がこのような地域づくりの取組に積極的になったように思う。しゃんしゃん傘踊りの始まりとなる話なので、多くの皆様に是非見ていただきたい。

2. 地域観光資源を活用した取組について

国府地域振興会議の委員にアンケートを配布し、地域課題の募集を行った。その中で町内に多くある史跡や遺跡について、有機的に結びついておらず、効果的な活用が出来ていない、地域資源を活かしたまちづくりができないかという意見があった。残りの任期内に「観光資源を利用したまちづくり」を提言できるよう、会議でまとめたいと思っている。

＜気高地域振興会議 河根会長＞

◎気高地域のまちづくりを見据えた統合新設校の検討について

少子化による児童数の減少を踏まえ、平成26年に「逢坂の教育を考える会」を立ち上げ、学校のあり方について検討を始め、平成29年に統合を願う要望書を市教育委員会に提出した。町内の残りの3校についても検討する会を立ち上げ各校区で検討を行った。

市教育委員会では、令和2年12月に「4つの小学校を一つの学校として新設統合する」という方針を打ち出し、保護者・学校関係者を中心とした学校統合準備委員会を組織し、具体的な検討が始まり、「浜村駅周辺の新規用地を取得し、学校を新築する」とする内容の要望書を令和4年2月に市教育委員会に提出した。

また、まちづくり・人づくりの観点で協議を行った「気高地域学校統合に関する関係者会議」では、「浜村駅南側周辺の新規用地で新しい学校づくりを進めていただきたい」という意見書を昨年12月27日に市教育委員会に提出した。

子供たちの教育環境の充実を早期に実現するため、スピード感を持って進めていただき、全国のモデルになるような学校を作り上げていきたいと思う。

＜鹿野地域振興会議 小川会長＞

◎空き家を活用した取組について

NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会が中心となって、空き家の利活用を行う中で、地域の課題解決や賑わい創出を実現している。

令和3年度にアート拠点「ART CUBE クチュールシカノ」、令和4年度に飲食店「時々」の整備を行った。地域の他店舗と連携を取り、「週末だけのまちのみせ」等のイベントへの参加や地域外の人の呼び込み等、地域の活性化に貢献している。

<青谷地域振興会議 長谷川会長>

◎青谷上寺地遺跡史跡整備事業に伴う魅力ある地域づくり・にぎわい創出推進について

青谷地域では、青谷かみじち史跡公園整備を核として、地域づくりの取組を進めていく。昨年11月には振興会議のメンバーで視察も行った。

プレオープンイベントや、県立青谷高校との連携による特産品の開発、積極的な広報活動、新たな卓球大会の開催等、関連する取組を多岐にわたって行った。

来年度から、県外から入学する生徒へ、生活費の一部支援を行う。考古学の人材育成等、地域活性化につながる取組になればと思う。

<市長による意見・感想>

◎国府地域での取組について

自主映画作成については、とっとりふるさとリーダーアカデミーでもご紹介いただいた。手作りの映画作成を行う中で、コロナ禍による苦労もあったかと思うが、素晴らしい取組である。ぜひとも多くの方にご覧いただきたい。

国府町の歴史文化については、昨年10月に行われた「万葉の大茶会」では全国に発信できたと思う。コロナ収束後、関西万博等を契機にたくさんの方に訪れていただくために、地域の魅力を高めていくためにはどうしたら良いか、一緒に考えていきたい。

◎気高地域での取組について

学校統合の件について、教育委員会は地域の考えに沿って検討を進めていこうとしている。方針が決定した後、候補地の地権者と交渉を行い、内容踏まえて関係予算を計上していく。逢坂小学校は児童数が少なくなっているようで、迅速に進めて行きたいと思う。

全国に誇れるモデル校になるように、教育委員会・地域の方々と一緒になって考えていきたいと思う。引き続きよろしくお願ひしたい。

◎鹿野地域での取組について

鹿野町における空き家の利活用は、とても素晴らしい取組だと思う。本市としても平成26年から研修会を行う等、リノベーションによるまちづくりを進めてきている。リノベーションは、遊休不動産に少し手を加えることで蘇らせ活用するという手法で、若い方を中心に熱心に取り組み、中心市街地にも事例がある。本市も一緒に取り組ませていただき、地域の活性化に繋げていければと思う。

◎青谷地域での取組について

青谷上寺地遺跡について、来年度展示ガイダンス施設がオープンすることから、内外に向けて情報発信をしていきたいと思っている。特に考古学に関心を持っておられる方は注目してくれている。重要文化財が2千点以上展示されるということで、数・内容共に充実した施設となる。この機会を地域づくりにどう取り入れ、活用していくか。北条道路の整備も進み、交通アクセスも良くなることから、大きな好機と捉えている。

キャラクターの上寺朗も全国に広く周知され、とてもおもしろい取組だと思う。

<テーマ②について意見交換>

・鹿野町の空き家活用について、私たちも先進地視察をさせていただき、参考にしたいところがたくさんある。その中で『お家の未来を考えるノート』について、どのように活用しているか。また、他の地域でも使わせてもらうことは可能か。(小谷会長)

→2020年に作成したもの。その際、空き家になる前に対策をしてほしいという思いから、鹿野町全域に配布し、空き家探しに活用した。本件についてはNPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会が管理しているので、他の地域で使用できるかどうかは確認する。(岡本支所長)

→佐治町も空き家が多い。空き家になる前にこのような資料を配布し、認識し、考えてもらう必要があると思う。是非使わせていただければお願いしたい。(小谷会長)

【後日回答】

「お家の未来を考えるノート」について、制作元のいんしゅう鹿野まちづくり協議会に快諾をいただいたので、各総合支所にデータを共有した。これを参考にオリジナルを作っていただくことになるかと思う。また、県中山間地域政策課からは、この取り組みを広げてほしいと言われており、他地域でも同様のものを作成するのであれば、県の委託事業が活用できる可能性がある。

併せて、県は来年度事業で「県版住み継ぎノート」を作ることを検討しているため、いずれこちらの利用も可能と思われる。

・以前用瀬町江波に住みたいが、空き家がないかという問い合わせが総合支所にあったが、その際に紹介できる物件はなかった。所有者も空き家を保有していても、賃貸にはなかなか踏み切れないことが多い。所有者にどのようなアプローチができるか、教えていただきたい。(片山支所長)
→ 空き家に移住して、長期間入られるとなると難しいようだが、イベントに使用するのは比較的許可が取りやすい。やはり家に仏壇があると、お盆の時期にご家族で集まれることもあるため、難しい。空き家のご近所に問い合わせると所有者がどこにお住まいか等、分かることがあるので、そこから交渉に繋げていく。(小川会長)

4 その他

<情報提供>

◎イベントの案内について

・しょうがぼかぼかフェスタを、4年ぶりに開催する。しょうがと温泉にこだわったイベントである。また、観光協会が主催している、わかめ株主募集を今年も行う。会場は船磯漁港で、募集枠300のうち、現220~230の募集がある。(中原支所長)

→ 浜村温泉映画祭に、先ほど発表の中でご紹介した国府の自主映画もエントリーしているので、是非ご覧いただきたい。(湯谷支所長)